２年間県内無敗と二度目の選手権６連覇した親和銀行

九回の攻防も双方が踏ん張り無得点で延長戦に突入した。もう少し『長崎県軟式野球史』に書き残しておく。

親和銀行が平成21年からの２年間に県内公式戦無敗(20連勝=不戦勝を含む)記録と、平成元年から６年に記録した県選手権大会６連覇を再び達成した。その戦績は下表。

県内２年間無敗の戦績			県選手権大会６連覇の軌跡		
20年	選手権	●2-4 舛田グループ	20年	[三]	●2-4 舛田グループ
21年	九連杯	○　西部ガス長崎		[決]	ｱｲｹﾝ医院 3-0 舛田ｸﾞﾙｰﾌﾟ
		○　アイケン医院	21年	[一]	2-0 ㈱南原
	天皇賜杯	6-0　池島クラブ		[二]	8-0 有明クラブ
		4-1　彼杵スラッガーズ		[準]	8-0 アリアケジャパン
		10-0 ALL生月		[決]	4-3 三菱重工長崎
		5-3　三菱重工長崎	22年	[二]	6-0 若松クラブ
	西日本	◇不参加◇		[三]	不戦 新星クラブ
	選手権	2-0 ㈱南原		[準]	15-0 瑞穂野球クラブ
		8-0 有明クラブ		[決]	3-1 アイケン医院
		8-0 アリアケジャパン	23年	[一]	17-0 勝本北星
		4-3 三菱重工長崎		[二]	2-0 長崎Canon
22年	九連杯	○　アイケン医院		[準]	4-0 JF長崎漁連野球部
	ﾘｰｸﾞ	○　三菱重工長崎		[決]	7-0 ㈱南原
	天皇賜杯	8-0 鹿町バンビーズ	24年	[一]	8-1 厳原マリナーズ
		不戦 松浦ベイスターズ		[二]	3-1 西龍クラブ
		4-0 たちばな信用金庫		[準]	3-2 南原クラブ
		2-0 ㈱南原		[決]	3-0 三菱重工長崎
	西日本	◇不参加◇	25年	[二]	7-0 島原市役所野球部
	選手権	6-0 若松クラブ		[三]	4-1 西部ガス長崎
		不戦 新星クラブ		[準]	5-0 南原クラブ
		15-0 瑞穂野球クラブ		[決]	7-4 三菱重工長崎
		3-1 アイケン医院	26年	[二]	6-0 長崎サニクリーン
23年	九連杯	●2-3 アイケン医院		[三]	1-0 勝本北星
	ﾘｰｸﾞ	5-1 三菱重工長崎		[準]	2-0 制覇クラブ
	天皇賜杯	不戦 勝本北星		[決]	1-0 三菱重工長崎
		14-0 御厨ベイスターズ	☆ ここまで大会6連覇 ☆		
		9-0 ㈱南原	27年	[一]	10-0 上対馬メッツ
		6-0 アイケン医院		[二]	●1-3 TEAM橋口
	西日本	◇不参加◇	[決勝]三菱重工 7-0 舛田グループ		

上表で九連杯予選会のスコア不明があるが手持ち保存資料に記載が無いのでここでは不明としておく。また西日本選手権予選も親和銀行は不参加することが多々あったが、Ａ級４チームリーグ方式となった24年からは九州都市対抗への代表選考会も兼ねており、毎回参加している。

王貞治杯九州学童で準優勝と優勝の戸尾ファイターズ

学童野球のことは八回の表で少し記した。ここでは戸尾ファイターズ(佐世保)の活躍に触れてみる。同チームが県学童大会に初出場したのが平成11年第28回大会で４戦の準優勝。

翌年の全日本学童予選優勝で〝**チビッ子甲子園**〟に初出場して１勝。夏の県学童でも初優勝。２年後の平成14年もダブル優勝し、15年全日本学童では初の２勝を挙げ８強入り。四回目出場の22年には３勝挙げてのベスト８に進出した。

平成25年県学童大会で11年ぶり２回目優勝した戸尾は秋に長崎県で開催された第11回王貞治杯九州学童大会に初出場。沖縄、大分を倒した決勝で福岡に大敗(5-15)したが準優勝。

28年も５月の全日本県予選で４年ぶり六回目優勝。７月の県学童も３年ぶり三回目優勝で11月の王貞治杯出場も確定していた。お盆前に東京で開催の全国大会は一回戦から登場し２勝を挙げ、秋までに練習を重ね別府での九州大会では…

第14回 王貞治杯九州学童大会		
【一】	9-1	津久見少年野球部(大分)
【準】	11-1	新川ダイヤモンズ(沖縄)
【決】	5-3	三根ボーイズ(佐賀)

一回戦と準決勝戦は五回コールドで勝ち上がり、県勢初優勝に輝いた。

将来が楽しみな少年たちである・・・。

ビッグNスタジアムで全試合の県中学選手権大会

昭和47年に始まった『長崎県少年野球選手権大会』は長崎市営大橋球場をメインに市内会場で開催されていた。

57年第11回大会も長崎市で開催予定だったが７月23日夕方から降り始めた雨による『長崎大水害』の影響で市内会場の一部は使用不能に。期日と会場を８月20日から大村市内に変更し学童部と中学部の両大会は開催された。

翌年は長崎会場に戻ったが、大村開催(H2)となったりで大橋球場が老朽化のため解体となった平成６年以降は両部が分離開催となった。

長崎市以外の開催地									
年	開催地	年	開催地	年	開催地	年	開催地	年	開催地
2	大　村	8	上五島	13	西海町	18	上五島		
4	佐世保	9	大　村	14	松　浦	19	島　原		
5	佐世保	10	生月町	15	島　原	20	諫　早		
6	波佐見	11	佐世保	16	島　原	21	西　海		
7	西海町	12	西海町	17	松　浦	22	西　海		

※平成4年は長崎会場が雨天順延で佐世保に。
※平成22年は準決勝と決勝がビッグNで開催。

平成８年第25回大会は離島上五島で21チーム参加。大会を運営した上五島の前田英敏初代理事長の「チーム宿舎から４会場間の移動には地元建設会社のマイクロバスを借り上げた」の苦労話も懐かしい。10年後の18年にも23チーム参加大会を主管。先代死去の後を受けた二代目の山下利平次理事長が指揮を採ったが最終日は雨。２チーム優勝は前年の松浦大会に続いて二度目のこと。

平成22年第39回大会(西海会場)は準決勝、決勝の３試合をビッグＮスタジアムで開催し、翌23年の第40回記念大会から県下一斉登校日(８月９日の原爆の日)翌日から四日間、22チーム参加の21試合全てを球児憧れの人工芝の上で開催。少年に夢と希望を与え、野球の楽しさを味あわせている。

県中学選手権大会史上初の2連覇は早岐中学校

平成29年第46回大会までの最多優勝は相浦中の５回。それに続くのが波佐見中の三度。大会２連覇したのが24、25年の早岐中。それまでに二年連続決勝戦進出したのは第３回と４回の野母崎クラブだけだったが準優勝の翌年が優勝。

平成24年第41回大会の早岐中は２年ぶり５回目の出場で過去三度のベスト４はここまでに10勝４敗の好成績。

２年続けて二回戦から登場し４勝ずつを上乗せした。

24年				25年			
第	[二]	5-2	有家(県南)	第	[二]	4-0	小長井(諫早)
46	[準々]	8-0	波佐見(東彼杵)	47	[準々]	7-0	岐宿(福江)
回	[準]	3-2	大野(佐世保)	回	[準]	3-0	桜が原(大村)
	[決]	2-1	桜が原(大村)		[決]	4-1	三重(長崎)

佐世保支部管内の中学チームは『平成の大合併』で北松浦郡の吉井、世知原、小佐々、宇久、江迎、鹿町の６町が編入。残った佐々、小値賀の２町中学チームも佐世保支部所属となり平成29年度の登録チームは長崎市の20を抜いて24。

県少年選手権大会には４チームが参加(北松枠含む)しており、支部予選会でも伯仲した試合を経ての県大会出場。春秋に開催される全日本少年県予選会参加枠は１チームでその佐世保予選会での白熱ぶりは想像できる。

平成20年以降の29年までの10年間３大会で、佐世保代表が優勝したのは、日野③、早岐②に、相浦、広田、大野が各１回は合計で８回。前述の学童も10年間２大会において、戸尾④を筆頭に相浦西やセインツジュニア。これに波佐見鴻ノ巣③や松浦少年②に県北のブラックダイヤモンズなど。波佐見中も含めて、正に〝**北高南低**〟の県少年野球勢力図。

新進気鋭の南原クラブとJF長崎漁連野球部に期待

県Ａ級チームはソニー九州が活動休止した平成21年に４となり翌年には西部ガス長崎が自主降格し３チームと減少した。九連会長杯出場枠は各県２チームで、23年から始まった九州都市対抗も県２チーム参加。２年間は３チームリーグ戦で代表決定していたが、24年に大村支部所属の南原クラブをＡ級に昇格させ、４チームリーグで上記２大会代表決定戦を28年までの５年間開催した。

	九州連合会長杯大会		九州都市対抗大会	
24年	親和銀行	①❷	親和銀行	①❷
	三菱重工長崎	❶	南原クラブ	❶
25年	三菱重工長崎	①②③❹準優	愛健医院	❶
	南原クラブ	❶	南原クラブ	❶
26年	親和銀行	❶	愛健医院	①②③④優勝
	愛健医院	❶	親和銀行	①②③❹準優
27年	南原クラブ	①❷	親和銀行	①②③④優勝
	三菱重工長崎	❶	愛健医院(推薦)❶	三菱重工❶
28年	親和銀行	①②③④優勝	親和銀行(推薦)	①②③④優勝
	三菱重工長崎	①②❸	三菱重工長崎①❷	南原クラブ❶

ところが八回の裏後半で記したとおり愛健医院が平成28年を限りに県登録から消えることになり、最近３年間の西日本１部と高松宮賜杯１部の６県大会において５大会優勝のJF長崎漁連野球部(諫早支部所属)を29年度からＡ級登録にした。

	九州連合会長杯大会		九州都市対抗大会	
29年	親和銀行	①②❸	三菱重工長崎	❶
	三菱重工長崎	①②❸	JF長崎漁連野球部	❶

南原クラブ、JF長崎漁連野球部ともこれまでの天皇賜杯県予選会での決勝戦進出は無いが、県選手権大会では南原が23年、漁連は29年に決勝進出しており、共に親和銀行に0-7、0-2で初優勝を阻まれている。

平成29年度より両大会においては県Ａ級チームは支部予選会を経ずに推薦出場できるようになり参加大会数も増えた。

第22回西日本選手権大会は30年11月３日から三日間、新しく建設された諫早市営野球場をメインに、ビッグＮ、長崎市営かきどまり、大村市営の４会場で開催され、支部代表枠プラス開催地３枠で４チームが出場。健闘を期待するところである。

九州都市対抗大会で3年連続決勝戦進出の親和銀行

上表の九州都市対抗大会において平成26年第４回大会から３年連続で決勝戦進出の親和銀行が大会２連覇を成し遂げた。

平成27年 第5回大会	平成28年 第6回大会 【推薦出場】
【一】 1-0 JAさが(佐賀)	【一】 3-2 西部ガス北九州(福岡)
【二】 3-1 北九州サニクリーン(福岡)	【二】 10-3 田中病院(宮崎)
【準】 3-0 大分銀行(大分)	【準】 4-2 佐川急便㈱福岡
【決】 5-1 日鉱日石㈱大分製油所	【決】 2-1 北九州サニクリーン(福岡)

また平成28年第39回九州連合会長杯大会では平成13年以来15年ぶり５回目の優勝。西日本選手権大会も28、29年と連続出場して、平成29年第21回大会では２勝してベスト８。

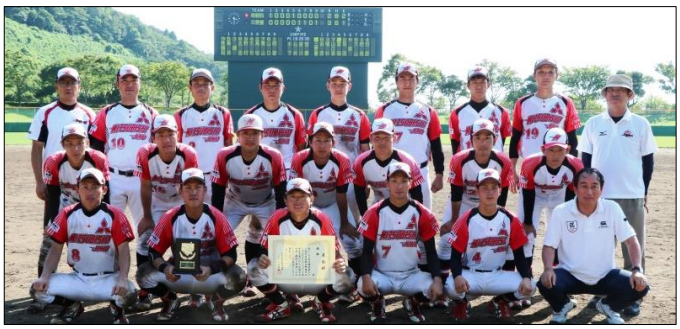
平成28年 第39回九州連合会長杯大会	平成29年 第21回西日本選手権大会
【一】 5-1 日鉱日石㈱大分製油所	【一】 2-1 森自動車(和歌山)
【二】 4-3 沖縄:くんじゃん	【二】 6-0 ハカタ貨物(高知)
【準】 1-0 鹿児島相互信用金庫	【準々】0-5 佐藤薬品工業(奈良)4連覇
【決】 3-0 田中病院(宮崎)	

九州大会や西日本大会での活躍が目立つ親和銀行であるが、天皇賜杯全日本大会においては平成19年に４年ぶり21回目出場以来、21～24年に４年連続は初戦敗退。25～27年は三菱重工長崎の後塵を拝し、28年第71回大会に北海道遠征した26回目の大会も５大会連続初戦敗退。15年の大会以来１勝７敗。

チーム単独に戻った国体参加第1号は三菱重工長崎

天皇賜杯全日本大会で低迷の親和銀行であるが、アイケン、ソニー、アイケンと続いた後の平成19～29年までの11年間に親和銀行が４年連続を含む６大会で１勝６敗。かたや三菱重工長崎は25年からの３年連続を含む５大会出場で、２勝５敗。３年連続３年目の27年第70回記念大会では青樹会(滋賀)に５－１勝利した二回戦で、３年前の24年大会準優勝のキャプティ(東京第１)と１－１同点で延長14回の死闘も決着付かず、タイブレークの15回裏にサヨナラ負け。

通算で14回目出場の29年第72回大会も初戦突破の二回戦で前年国体ベスト４の静岡ガスに敗退。静岡ガスはこの大会でもベスト４に進出した。



平成29年 第72回天皇賜杯長崎県大会で優勝の三菱重工長崎

天皇賜杯全日本大会が兵庫県で開催された２週間前。第72回愛媛国体に県単独チームとして平成14年の親和銀行以来、15年ぶりに三菱重工長崎が出場。チームとしては昭和44年長崎国体、47年鹿児島国体、59年奈良国体以来33年ぶりの四度目の国体出場。

県予選会では最終選考会の４チームリーグ戦で３連勝し九州ブロックもオール大分を３－２で倒しての晴れ舞台だったが、宮城第一信用金庫と３-３で延長戦。12回裏に力尽き３-４のサヨナラ敗戦となった。

なお、単独チーム出場となった平成27年以降の九州ブロック国体における県代表チームの戦績は、

27年 親和銀行	28年 三菱重工長崎
［代］ 2-4 宮崎サニクリーン	［代］ 1-4 鹿児島相互信用金庫
敗者復活戦	敗者復活戦
［一］ 4-3 沖縄選抜	［一］ 3-0 熊本選抜
［代］ 2-3 熊本選抜	［代］ 5-6 沖縄選抜

長崎県軟式野球界を牽引してきた両チームには、まだゝ頑張ってもらいたいのが、正直な気持ちである。

年々進む一般チーム数の減少化

少子高齢化は日本全国での課題であるが、長崎県連盟における一般チームの減少化は食い止めることができない。

平成19(2007)年は15支部で190チーム。10チーム超支部は９支部あり20超えが３支部あった。だが10年後(H28年)には53チーム減の137チームと激減した。10チームを超えた支部は僅かに６。それも辛うじて維持しているのが４支部。

学童と中学には大きな変動は無いが、中学チームに減少が見られ２～３校の合同で大会に参加するチームも、近年の傾向となっている。平成28(2017)年の登録数は、学童が61、中学は115チームが県大会や九州・全国大会出場を目指して、日頃の練習に励んでいる。

長崎県軟式野球連盟ホームページを開設

平成30年の県連理事会および総会において『長崎県軟式野球連盟公式ホームページ』の開設が承認され、４月１日からインターネット上で大会結果や県連の情報等が公開された。

ホームページの編集は県連理事の吉野徹(対馬支部)が行い県15支部のうち離島４支部を抱える長崎県連盟にとって離島と本土との距離がウェブを通じて解消されることになった。

長崎サニクリーンが西日本１部で準優勝

３年ぶり二度目の県代表で参加した宮崎県での第40回西日本１部において一回戦からの４試合を勝ち上がり、決勝戦ではフンドーキン醤油(大分)と４－４の延長十回に先頭四球から守備の乱れで決勝点を与えて４－５敗戦。決勝戦前の準決勝でも四国電力(徳島)に対して２－２で延長十回の死闘をモノにしての決勝戦進出だった。

この大会でチームが記したスコアブックが数日後にホームページ編集者にメールで届くと、全５試合の詳細がインターネットを通じてチーム選手や県野球関係者に公開された。

長崎サニクリーンが県大会に登場したのは４年前の平成26年。西日本２部、高松宮賜杯２部に続いて天皇賜杯と県選手の４大会(県体は長崎国体のため休会)に東彼杵支部代表で参加。西日本ではベスト４だったが、高松宮賜杯で４連勝すると九州ブロックも突破し全国大会へ。延長10回で長野県に初戦敗退。27年に１部に昇格すると、舛田グループ、アリアケジャパン、ＡＬＬ生月などＢクラスの古豪・強豪を撃破して決勝ではＢ級で進境著しいＪＦ長崎漁連を１点差勝利し、２年連続で中央大会進出。ここでも奈良県に１点差で初戦敗退。

１年おいた29年の高松宮賜杯１部を制すると九州ブロックも圧勝して三度目の中央大会は富山日野自動車にゼロ封敗戦。そして県大会初登場から５年目で中央大会での準優勝。全軟連規定により次年度はＡ級に昇格となった。

諫早第１野球場と第２野球場が新設

諫早球場は戦後の雇用促進事業として昭和27年竣工された。老朽化のため『新・諫早野球場』が建設され、その開場式は平成30年７月２日に華々しく行なわれたが、それから７週間後に、春は咲き誇る桜で囲まれた諫早球場の閉場式が市の野球関係者により、ささやかに感謝を込めて行われた。

第１野球場と隣接の第２野球場も１年後には建設され、両翼100m中堅122mと同じ規格で市民や県野球界にとっても朗報。

そして、諫早第１野球場をメインとし県営ビッグＮ、長崎かきどまり、大村市営の４会場使用して『第22回西日本選手権大会』が長崎県のＡ級３チーム含む26チーム参加で開催。

西日本選手権決勝で親和銀行がサヨナラ敗戦

平成30年11月２日から四日間の日程で開催された第22回西日本選手権は新装の諫早第１野球場の開会式で開幕。

長崎県代表３チームの戦績は…

親和銀行	三菱重工長崎
［二］ 7-1 秋山工業(愛媛) ［準々］ 6-2 養和会(鳥取) ［準］ 1-0 大阪シティ信用金庫 ［決］ 2-1 佐川印刷㈱(京都)	［二］ 5-0 岡山ガス㈱ ［準々］ 3-1 戸高鉱業社(大分) ［準］ 0-6 佐川印刷㈱(京都)
南原クラブ　［二］ 0-2 ハカタ貨物(高知)	

親和銀行が準決勝で対した大阪シティ信用金庫は第１回(H9)大会で優勝以来,第18回(H27)まで連続で決勝戦進出。第３回から第９回の７連覇や、第11回から５連覇を含む優勝14回、準優勝４回を誇る強豪。２年前の第20回大会二回戦で０－４敗戦していたが、地元開催で雪辱を果たした。

立役者はエースの岡部慎太郎(27)。安打４四球２三振２の86球で完封すれば、攻めても三回先頭の岡部が安打した一死二三塁に二ゴロで得た１点が決勝点となった。

決勝戦の相手は前試合の準決勝で三菱重工長崎に対し10安打で６－０と快勝した佐川印刷㈱。ビッグＮで準決勝を戦った親和銀行を諫早で待ち受ける格好となった。

長崎から30分の会場移動してきた岡部が連投。初回に二塁打の磯祐一郎を山口優大が中前に転がし先取点。この１点を岡部が八回まで三塁を踏ませず５安打84球に抑えていたが、九回裏に先頭安打からの二死二塁に連続左中間二塁打を喫してサヨナラゲーム。佐川印刷は四度目の決勝戦で初優勝の栄を受けた。

親和銀行は西日本選手権大会より２カ月前の天皇賜杯全日本大会(山形)に27回目の出場。昭和53年に一回戦から５戦してのベスト４以来、40年ぶりにベスト４に進出。二回戦からの４試合すべてに岡部は登板し、二回戦は佐藤薬品(奈良)に１-０。準々決勝の田中病院(宮崎)も４-０で完封したが、京葉銀行に対して先発するも苦杯(0-5)。

九州都市対抗大会で準優勝の三菱重工長崎

2019(平成31)年の県Ａ級登録は新規の長崎サニクリーンと親和銀行に三菱重工長崎。前年までの南原クラブとＪＦ長崎漁連野球部は自主降格して、３チームがＡ級登録。

三菱重工長崎の2019年は、春の九連会長杯で県２連勝。国体選考会も３連勝して九州ブロックも突破し茨城国体でも１勝を挙げた。西日本選手権予選では３チーム１勝１敗で失点数により長崎サニクリーンが代表。親和銀行と共に県代表で臨んだ第９回九州都市対抗大会で初の決勝戦進出。準々決勝は１－１で10回からのタイブレーク戦は12回裏にサヨナラ安打。準決勝は０－６を八回12人の猛攻で同点としタイブレークの延長10回サヨナラ。決勝は０－０延長10回に２点を奪われ福岡サニクリーンに大会２連覇を許した。